

# 銚子ジオパーク市民の会 ニュース

屏風ヶ浦 (銚子市)

第118号  
2022年6月9日 発行  
発行責任 工藤 忠男  
銚子ジオパーク市民の会  
URL : <https://choshigeopark.com>



## 2022年度市民の会総会開催

小玉 健次郎

5月28日(土) 14時から銚子市勤労コミュニケーションセンター二階で2022年度総会が開催されました。2年ぶりの会場

での総会ということで、会員の方々との久しぶりの再会を喜び合いました。

総会では工藤忠男会長が開会の挨拶をし、推進協議会会長の越川信一市長から市民の会の活動に感謝するというメッセージが読み上げられました。

出席者数について田中豊幹事から報告を受けた後、2021年度の活動報告を小玉副会長、収支決算報告を茂木洋佑事務局長、監査報告を保立得造監査が報告しました。

2021年度に市民の会が推進協議会事務局より依頼された一般客のジオガイド数は、新型コロナウイルス感染症の影響で少なかったが、感染防止宣言の合間を縫って行われた銚子市内外の小・中・高等学校の学習支援ガイドが24校に増えたことなどが報告されました。

また、事務局長からは、個人会員数が2018年度344名、2019年度319名、2020年度

205名、2021年度280名、2022年度280名という演目で、講師は農業・食品産業技術総合研究機構研究員の中里裕巨先生でした。

今、話題となっている「チバニア」とは、地質年代区分で280万年前から現代までの「新第四紀」の中の、より詳しい区分で「10万年前から100万年前までの年代のこと

日本の研究チームが千葉県下でチバニアの始まりの地層を詳しく調査し、2020年に、そこがチバニアの下限(はじまり)の世まで「129万年前の結果、10万年前のチバニアの上限(おわり)から129万年前が「千葉時

代IIチバニア」と名付けられたのです。中里先生はこの調査チームで活動されていました。そしてチバニアの始まりの地層が銚子の高田川河畔にもあることを確認しました。このためこの講演には

市民の会総会参加者とともに、白石ダム、高田川、余山に、白石ダム、高田川、余山の住民の方々も聞きに来られ、高田川近辺の地層について詳しく説明を聞きました。



総会・記念講演 風景

### 総会記念講演を聞いて

川原 俊久

市民の会と銚子ジオパーク推進協議会との共催で行われた記念講演は「銚子地域のチバニアにオンラインで届ける試み

も行われました。講演の内容は、高田川の地層には養老川でチバニアの始まりの基準になった火山灰層はな

いが、ほぼ同時代の別の火山灰層があり、さらには森戸町で採取された地下ボーリングサン

プルの研究した結果、高田川の地層中の火山灰層の約数十cm下がチバニアの始まりの地層であることをつきとめました。

また、「チバニアどこからどこまで」の「どこまで」(129万年前)についてですが、銚子近辺の火山灰層と高田川の火山灰層が同じ地層にある場所を探した

ことでした。講演内容は銚子に関係があり興味深かったですが、現役の研究者の講演で内容が難しく理解

ができませんでした。東京に咲いているソメイヨシノとの関係や花の違いなどを説明するなどして

### 東京からバス8台 房州 文子

私の担当はC組5号車です。犬岩・外川・屏風ヶ浦・昼食(なぎさや)・ジオパークの森・犬吠埼の順番で廻ります。

当日は50分遅れでのスタートになりましたが、時間調整しながら、何とか時間内に案内することができました。

生徒さんは、学校での事前学習で「ブラタモリ」を観たり、銚子について調べていましたので、とても良い雰囲気でした。ジオパークの森では大島桜が咲いていましたので、東京に咲いているソメイヨシノとの関係や花の違いなどを説明するなどして